

「水素インフラの現状と将来の展望」(石油エネルギー技術センター・小林弘氏)、「高圧水素用鉄鋼材料とその溶接部特性」(新日鉄住金鉄鋼研究所・大村朋彦氏)、「水素ステーション建設における溶接・接合技術」(総合産業技術エッジ・山根昌也氏)のテーマで講演が行われ、会員ら約80人の関係者が参集した。

軽金属学会 日独の研究最前線を紹介 線形摩擦接合の可能性に注目集まる

軽金属学会(伊藤晋明会長)はこのほど、東京・港区のドイツ文化会館で国際ワークショップ「ニマルチマテリアル接合を開催した。このワークショップは、企業の競争力強化において産学連携がますます重要となっていくとの認識のもと、接合や表面改質のなどの応用研究成果の事例について「知る」を目的に同会が企画したものである。当日は欧州最大の応用研究機関であるフラウンホーファーによる後援のもと、同機関から来日した講師や大阪大学接合科学研究所の藤井英俊教授らによる接合や表面改質に関する最新の応用研究事例について

18年度から新たに始まるNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)事業における取り組みを、大村氏が高圧水素用鉄鋼材料の母材・溶接部の特性と評価方法、高圧水素ガス環境における水素浸入機構について、山根氏が水素の特性・市場・水素ステーションの建設状況や、水素ステーション建設で使われているコンパウンドスレッド(C&T)継ぎ手接続に代わる溶接施工法・接手・弁などについてそれぞれ紹介した。

の講演が行われ、47人が聴講した。1コマ目にはフラウンホーファー日本代表部の三木英哉代表が、フラウンホーファー研究機構の概要と日本における活動について紹介。三木氏はフラウンホーファーが2万5000人のスタッフと72の研究機関・研究ユニットを抱える欧州最大の応用研究機関であり、一研究を通じて学術界と産業界との橋渡し役となっているなどと発言。また年間研究費は23億ユーロ(約3000億円)で、そのうち20億ユーロ(約2600億円)が企業からの委託研究や公的財源による研究プロジェクトなどで賄われていることなどを紹介した。

藤井教授は自動車を中心とした輸送機器の軽量化に向けた接合および構造材料の技術開発を推進するために設立されたISMA(新構造材料技術研究組合)の研究開発のうち、FSW(摩擦攪拌接合)とLFW(線形摩擦接合)を比較して紹介した。FSWに寿命に限りがある接合ツールが必要であるのに対し、LFWは①ツールが不要の材料同士を押し当て、片方の部材を界面に沿って線形運動させることで摩擦熱を発生させ、任意の温度ながら1秒で接合可能であること、などの特徴を説明し、普及拡大の可能性を示した。



日独の研究に聴衆が注目

講演では小林氏が35メガパスカルおよび70メガパスカル水素ステーション用金属材料選定の経緯、インフラ業界からの要望に沿った研究開発・成果、20

「水素インフラの現状と将来の展望」(石油エネルギー技術センター・小林弘氏)、「高圧水素用鉄鋼材料とその溶接部特性」(新日鉄住金鉄鋼研究所・大村朋彦氏)、「水素ステーション建設における溶接・接合技術」(総合産業技術エッジ・山根昌也氏)のテーマで講演が行われ、会員ら約80人の関係者が参集した。

1月の世早失岡E査

今年6月に都内で開

柳井選手はその中
で「東証を重く目撃

続く。前月2位のイン
ドで、同3位の日本が

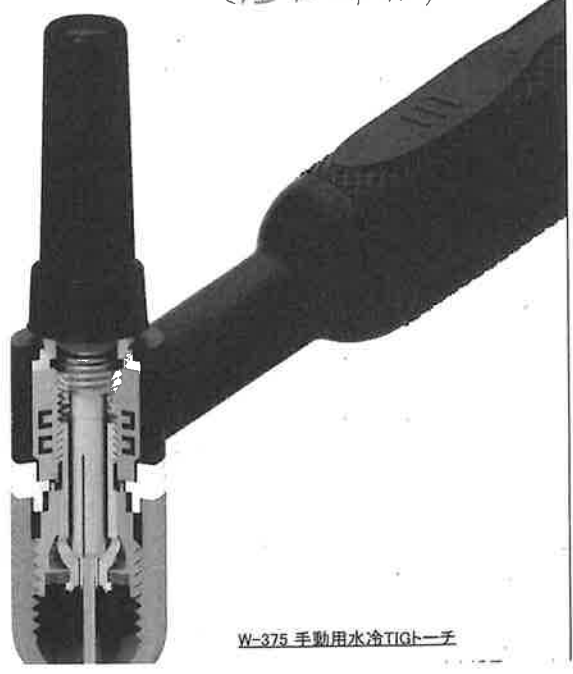


TIG ウェルダの CRAFTMANSHIP に伝える

ラメルは、高品質なTIGトーチを40年以上にわたり供給しているTIGトーチの専門サプライヤーです。

トーチのパフォーマンスは素材が第一という理念のもと、各部品に最適な材料を使用し、耐久性の高い製品の供給を行っております。

また、多種多様な溶接条件に対応するTIGウェルダのクラフトマンシップに応えるため、全てのトーチカット



W-375 手動用水冷TIGトーチ

2019.1.15 溶接ニコース
(産報出版(株))